

# しのはら歴史便り

篠原地区歴史同好会 / 浜風会会報 No.45

2025.1.1

## みんなでやるラジオ体操

「♪新しい朝が来た♪」で始まるラジオ体操のお陰で、健康に自信を持てるようになったことから、坪井地区で開始した経過と共に、ラジオ体操はどんな効用があるかについてもまとめました。

### 始まったきっかけ

篠原地区のラジオ体操は平成16年社会福祉協議会が発足して一年が経過した頃、「ラジオ体操は身体に良いようだよ、始めてみよう」と持ち上った。

坪井町では丁度、東海道線を高架で跨ぐ中環状線が開通し、東西を結ぶ道路と共に歩道の役割をする地下道もでき、高架下が有効に使えることが明らかになった。こんなつまい話を利用しない手はないと飛びついた。誰の許可を得ることなくできたのは幸いであった。更にどこにもない良い点は雨が降ってもラジオ体操ができるということである。近所の人たちを誘い合い、平成17



年7月1日から開始した。今年で丁度20年目に入っている。ここは仲山と新田集落のほぼ境に当たり、今でも双方から集まってくる。地域の融和と活性化にも大きな役割を果たしてきた。またここではラジオ体操

中に、電車や新幹線が通るのも一興である。

ラジオ体操はそれから間もなく篠原町の八阪神社、馬郡町の馬郡学校跡でも始まった。更に篠原協働センター前、馬郡町の春日神社も続き夏休みには、西明神社、西本徳寺、神明宮、浜松いわた信金篠原支店、浜松ピアノアクションの合計10箇所で行われている。

### ラジオ体操の歴史

ラジオ体操は毎日午前6時半からNHKラジオ第1で放送されている。たった10分間だけの誰でも気楽にできる体操である。

その歴史は1920年代から始まった。

戦争で中断したことがあったが、ラジオ体操第1が1951年、第2が1952年に放送が始まった。90年以上の歴史があり、全国で2千万人以上の人がやっているものである。

### ラジオ体操のすざ(効果)

全国ラジオ体操連盟の資料によれば、次の効果があげられている。

- ① **体力の維持**：飛び跳ねる→骨に刺激し骨密度を高めて、骨粗鬆症の予防。
- ② **血行促進**：筋肉を動かす→心臓から全身への血液の流れがよくなる。
- ③ **食事を美味しく食べられる**：擦じる、曲げ反る→胃や腸の働きが良くなる。

更にその効果を高めるポイントは、  
・ 伸び伸びと全身を動かす。  
・ 一つ一つの動きにメリハリをつける。  
・ どの筋肉を動かしているか意識する。  
・ 身体は変化するので毎日継続する。  
そしてその活動の強度は散歩以上、卓球と同じレベルと言われている。  
そんなラジオ体操を毎朝しっかり行う生活習慣が、私の健康の拠りどころであり、健康のバロメーターにもなっている。

(山下勝彦)

## 令和6年浜風会の活動内容紹介

篠原地区の歴史の掘起こしの活動は、第1、第3木曜日に、篠原協働センターで例会を持ち、会員が行った研究の成果を発表しています。7月18日に発表された例を紹介します。

### 馬郡町にあった学校

明治6年、舞坂学校の馬郡分校として馬郡観音堂北側の境内に開校しました。明治8年馬郡学校として独立しましたが、明治25年篠原尋常小学校の分校になりました。

明治8年の記録によれば、先生は2人、生徒は男92人、女24人で坪井、馬郡地区に住む一、二年生の授業が行われ、三年生になると篠原の本校に通いました。

### 大正15年篠原尋

常高等小学校が篠原東地区から現在地に移転、新校舎建築に伴い、馬郡分校は昭和2年に廃校となりました。現在馬郡学校跡地は児童公園として使用され愛称標識が立っています。



地区別年度別設置件数／発電出力（単位MW）

設置年	篠原東	篠原西	坪井	馬郡	計
2013	1	6	1	0	8
2014	0	1	0	0	1
2015	1	8	1	0	10
2016	0	4	0	0	4
2017	0	8	0	0	8
2018	4	2	26	0	32
2019	25	3	4	0	32
2020	0	2	0	1	3
2022	6	0	1	0	7
未調査等	10	15	1	5	31
計	47	49	34	6	136
発電出力	2.8	26.9	8.1	0.1	37.9

今起きていることの調査・研究の活動  
歴史を掘り起こすと共に、今起きていることを後世に残すことも必要です。7月4日の発表例を紹介します。

**篠原地区に増えるメガソーラー発電所**  
2013年坪井町に大型発電所が設置されて以降、篠原地区のソーラー発電所は増え続け、約10年で136件、合計約3万8千KWが発電されている。それを年間総発電量に換算して一般家庭での年間消費電力量で割ると約1300戸分の発電量といえる。それは篠原地区全戸数の27%近くを賄えると発表されました。

設置件数及び発電出力は表のとおり。



**篠原地区を歩いてみよう**  
1月に馬郡の春日神社、5月に坪井の前浜、9月に篠原の新川沿いを自らの足で歩き、地域の歴史を学ぶ行事です。9月19日には篠原地区の北側の新川沿いを見学しました。

新川は佐鳴湖から浜名湖に流れ、篠原地区と志都呂地区を分ける歴史的にも貴重な河川です。志都呂橋は南北二つの地区を結ぶ重要な橋です。今は改修され広くなりました。橋の北側には「首無し地蔵」がありますが、以前は川の南にありました。



自治会連合会の支援を受け全戸配付の上、小学校中学校にも届けることができました。裏側にはお宮・お寺と旧跡には、みどころのワンポイント解説が示してあります。これを使って私達の篠原地区を楽しく歩いてみましょう。

志都呂橋から東へ新川沿いを歩いていくと、ソーラー発電所と養鰻池の多さに驚きました。養鰻池は昭和30年代に比べかなり減りましたが、替わってソーラー発電所が増え続け、歴史の流れを見ることができました。新川と堀留川の合流点には水門が設置され災害対策が施されていました。ウォーキングマップの改訂版作成  
篠原地区の史跡を訪ねる上で便利なウォーキングマップは平成8年に作成されましたが、中環状線が開通し一変したこの篠原地区を『篠原地区ってこんなところ』と題して4月に改訂しました。

古文書教室開催



会員は古文書が読めたらどんなに楽しかろうと常々思っています。講師は令和4年からお願いしている舞阪図書館長の荒熊元茂先生で、10月17日は「浜松宿杉浦家ご本陣日記」についてです。高松藩のお姫様が宿泊先のこの本陣で病気を発症し、1ヶ月ほど逗留した時に高松藩から本陣へ全快祝いが届いたという内容について講師の明快な説明で楽しく学ぶことができました。

近郷名所巡り

1月18日、自家用車に分乗して浜松市内の犀ヶ崖古戦場、西来院、宗源院を巡りました。写真は生憎の雨の中、宗源院の本堂を訪ねるところです。



バス旅行

11月27日に愛知県東三河にある三河国分尼寺跡と豊川稲荷(妙厳寺)を見学し昼食。そして奥三河にある田峯観音と長篠城址を見学しました。参加者は21名でした。当日は好天に恵まれ歴史を楽しむことができました。

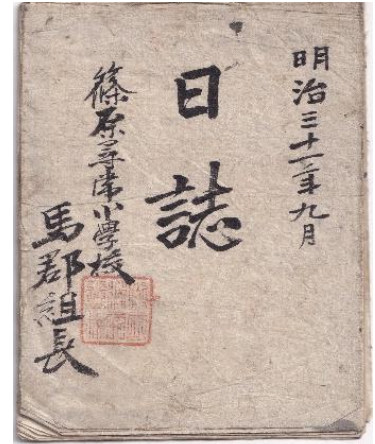
(藤田博辞)



# 明治三十一年の通学風景

強調している、ほとんどの日はこれだけの

「郷土資料室」に保存されている資料の中に通学日誌がある。この記述から当時の通学の様子が見えてくる。この日誌は馬郡の児童たちの登校する様子を上級生の組長が簡素に記録したもので、



記述。お祭りでは「同（十月）十五日 曇天 お社祭典二付休業」、十六日も十七日も同文で休業は三日間になっている。村内の神社祭日は十五・十六日と十六・十七日の二通りがあり三日の休みとなっていた。

表紙には「篠原小学校」と読める角印があることから、学校が定めた集団登校日誌であることが分かる。

運動会のこと、「同廿一日 晴

天 運動会、同廿二日曇天 運動会二ツカシ休業」、家庭運動会が遠足の様な運動会かはっきりしないが児童のための疲れ休みだろうか。

い。道中は長いから注意してもまた起こる。落ち着きが出てきて責任を感じる上級生はいらだったのだろう。下級生の面倒を見てこんな苦勞を体験しながら組内の絆を深めていったと思う

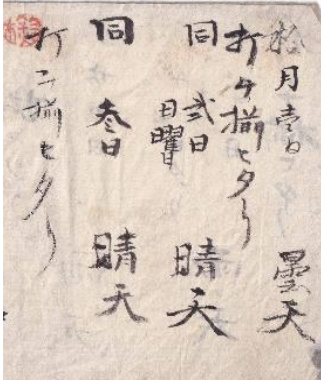
ところで日誌を見る私の小学生時代は昭和二十年代で同じように列を作って登校した。神社に集合し上級生の掛け声で一年生を先頭にして歩いた。昭和二十八年、六年になった時にまとめ役になり、それを命ずるとする委嘱状をいただいている。

当時馬郡には篠原尋常小学校馬郡分校があり二年までは分校に通い、三年からは篠原の字三分一にあった本校に通った。西馬郡からは三キロもあった。日誌は明治三十一年九月二十七日から天気とその日の状況を記述していて、先生の認め印が毎日押されている。記述の中には学校の行事もある

興味深い記述がある。「十一月十七日曇天 打ち揃ヒタリト云モ刑部 太田 河合 刑部ハツラミタシタリ」とある。（注：名は省いた）上級生である組長は列から外れたであろう四人の名を報告している。この四人は下級生だろうか。この様な記録は日誌の終わる十二月十二日までに五回もあり、十二月八日には「組長ノ云フコトヲキカザル者」として三名の名前を記している。毎回注意しているがお手上げだと言わんばかりである。想像するに下級生たちは喋りながら歩くのが面白く時には振り向いたり、か

らかったりして列を外れたのかもしれない。

（鈴木忠）



のでいくつかを拾い上げてみる。「九月廿八日 曇天 打ち揃ヒタリ」と全員が揃ったことを

ら



朝の篠原町の通学道路

浜風会会報 第45号  
篠原協働センター同好会浜風会  
（篠原地区郷土の歴史を学ぶ会）  
編集委員 委員長 山下勝彦  
鈴木忠 鈴木理市 藤田博辞  
山中道弘 川嶋秀幸  
発行責任者 山下勝彦  
発行令和7年1月1日